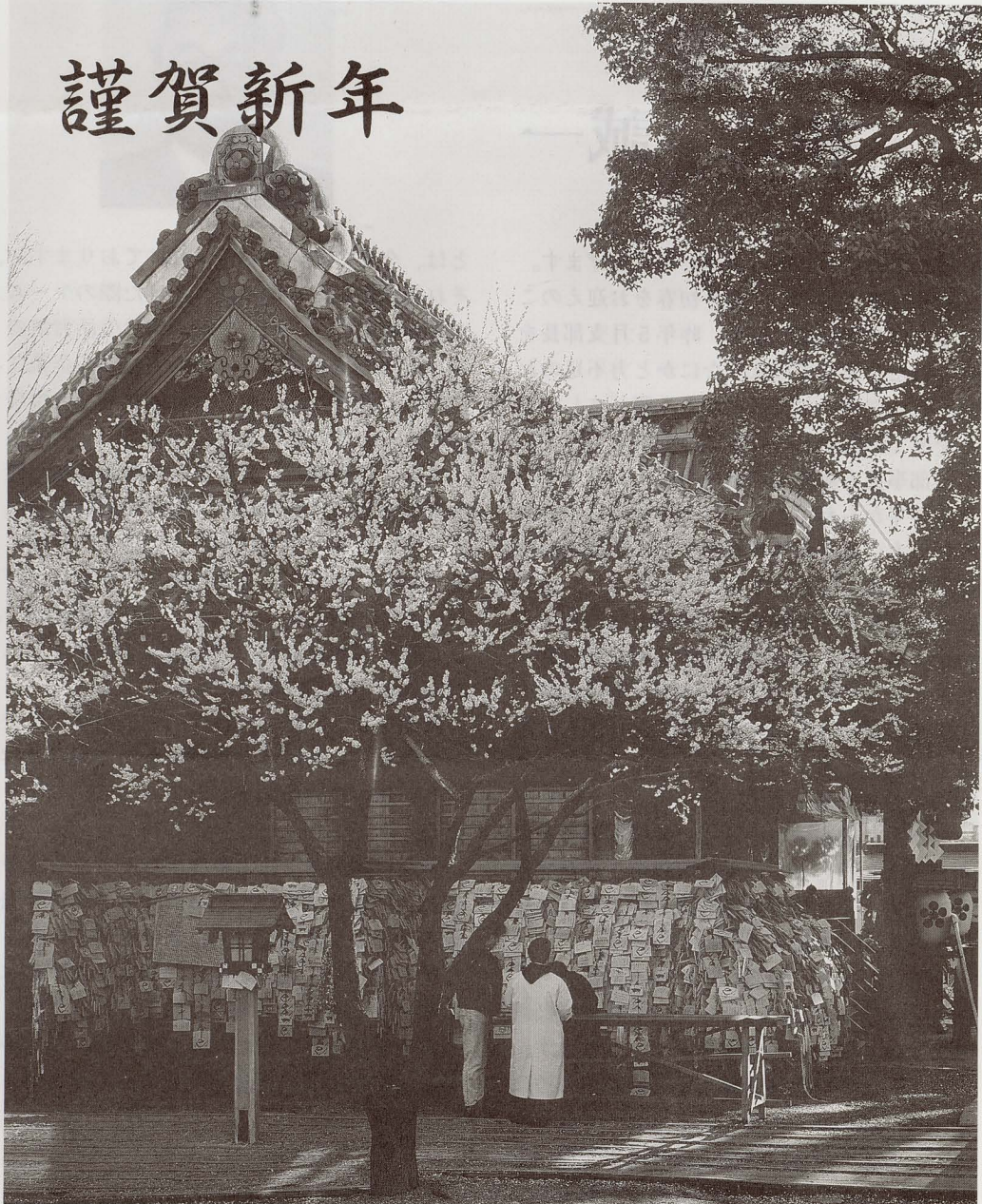


東京都社会保険労務士会 会報

千代田・中央支部

事務局 〒102 東京都千代田区神田淡路町2-13-4-401 ソウマ労務管理事務所内
東京都社会保険労務士会 千代田・中央支部 ☎03(3251)5141 発行人 相馬誠一

謹賀新年



湯島天神

新年のごあいさつ

社会保険労務士も 国際化の波に乗って活躍のとき

支部長

相馬 誠一



謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様にはすこやかによき初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年5月支部長を拝命いたしまして以来、なにかと力不足のわたくしに温かいご支援ご協力を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。お陰をもちまして支部事業も順調に推移いたしております。

一昨年からわずかにかげりを見せはじめた好景気も、昨年の後半から一気に下降局面へと動きを変えてまいりました。しかし、経済成長の流れは依然根強く、労働市場における労働力需要は、大企業が中小零細企業を食う結果となって表れてきています、その結果中小零細企業の人不足対策として、外国人労働者の労働力に目が向けられてきたことはご承知のとおりであります。

しかし、現在の国内法では外国人の労働力を日本人と同じように受け入れることができないため、条件付で外国人の労働力を確保しようと各団体が動きを早めています。

なお、行革審「世界の中の日本部会」も外国人労働者の研修生について、制限付ではありますが、前向きの答申を出しております。

いよいよ社会保険労務士も、国際化の波に乗って活躍のときが来たのではないのでしょうか。日本人の常識は外国人には通用しないこ

とは、今まででもいろいろいわれておりますが、それは日本人が外国で働きかけた際のケースでいわれていました。これからは生活習慣の違ういろいろな外国人との対応を顧問企業に代って、我々が代行しなければならない場合が増えてくると思います。

さて、昨年10月に発表された社会保険労務士試験合格者は1,298人(合格率9.6%)でしたが、早いもので今年は法律ができて24年目になります。そろそろ身を固めていかなければならない年頃になりました。すなわち社会に、また自分に責任を持って行動していかなければならないということです。

残念ながら昨年も、数件の社会保険労務士の名称を付した事件が新聞のなかで報道され悔しい思いをいたしました。誠に残念でなりません。

社会保険労務士法も数度にわたって改正が行われておりますが、資質の向上に向けて法改正が必要な時期なのではありますまいか。今年もお互いに協力しあい、資質を高めるべく努力してゆきたいものと願っております。

新年を迎えるにあたりまして皆様のご健勝とご活躍を心より祈念いたしましてごあいさつといたします。

人間文化の先達

世界中に200種以上

今年の干支は申、動物ではサル(猿)をあてます。申がなぜ猿なのかについては定説がないようですが、申の定義が「のびる」とか「かさねる」で、申告とか申請などという言葉に使われていますので、積極的なサルの行動と何らかの関係があるのかもしれませんが。

動物学的な意味でのサルは、霊長類に含まれる動物のうちヒトを除いたものすべてをさす総称で、世界中に200種以上が分布しています。その大きさや姿形もかなりバラエティがあり、体重わずか300グラムのキヌザル(南アメリカ産)から、200キロを超すゴリラ(アフリカ産)までさまざまです。

世界中にと申しましたが、もともとサルは熱帯産の動物で、アフリカ、アメリカ(中・南米)、インド、東南アジア、中国南部など暑い地方が主産地で、我が国の下半島が北限となっています。したがって、我が国のように雪の降る地方(東北地方、北陸、長野県北部など)に生息し、雪の中でも逞しく生きている姿は海外の人にとってとても珍しくうつるようです。その故でしょうか、ニホンザルのことを英語で snow monkey (ユキザル) などと呼ぶことがありますし、長野県山ノ内町の地獄谷で温泉につかるサルはニューズウィークの表紙にまでなったことがあります。

冬期の寒さへの適応と思われますが、ニホンザルの毛はとても深く、分類学上はオナガザル科に属していますのに、尾の長さはわずかに10センチほどしかありません。事実、カニクイザルなど尾の長いサルを冬期に外で飼育していますと、いつの間にか凍傷にかかり、尾がだんだん短くなってしまうことが観察されていますから、やはり短い尾が我が国で生活するには好都合なのでしょう。



日本人とは独特な関係のニホンザル

これらの環境適応が完成するためには長い時間が必要なはずですが、化石の研究などからしますと、鮮新世後期にはすでに我が国に住んでいたようです。縄文期にはかなりの数のニホンザルがいたらしく、貝塚などの遺跡からその骨が発見されています。

したがって、日本人とニホンザルの交流の歴史は古く、我が国に分布する唯一の霊長類仲間として一種独特の関係が育ったように思われます。

猟師も狩猟対象から外したといえますし、山王神社や日吉神社など神使として扱っている神社も少なくありません。また、この動物のちえのあるところを眼をつけ、猿芝居や猿廻しなどに用い、独特な地方文化が育っています。

最近では、ニホンザルの群れを対象にした霊長類の研究も盛んで、京都大学の霊長類研究所を中心としたサルの行動や社会構造についての研究は、“日本のサル学”として世界的にトップレベルにあるといわれています。

これによって、今まで謎につつまれていたニホンザルの行動が次第に明らかになり、ボスザルを中心とする群れ構造もわかってきました。この研究の中で初めて使われたボスザル(群れのリーダーオス)、メスガシラ(メスのトップランクのサル)などの呼称は、今では一般化して使われるようになっています。

また従来、“サルのノミ取り”として知られていた行動も、実は毛づくろい(グルーミング)というもので、サル同士の感情の交流の手段であることなども明らかになっています。

これらの研究は、ヒトの行動や社会構造を知るうえで重要な手がかりとなるもので、今後の成果が期待されています。俗にサル真似などと申しますが、真似るは学ぶに通じ、私たち人間の文化も真似る(学習する)ところから出発したことは疑いありません。

さすれば、サルは私たち人間文化の先達でもあり、サル年を機に、あらためてこの動物を見直すのも意味あることと申せましょう。

管外研修会講演会

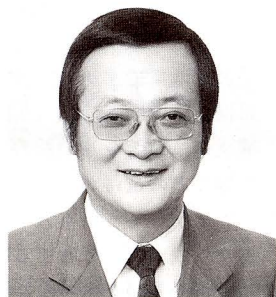
「世の中は、生産至上主義から生活中心主義に変わっていきつつある」「社会保険労務士は年金・労務問題の専門家である」「社会保険労務士の仕事は、歩いていけばそこ（周辺）に潜んでいる。やるかやらないかの問題だけ」。

そんな社会保険労務士の哲学のような例えばなしがポンポンとび出したのが、昨年10月の研修会での大槻哲也氏の講演です。これからの社会保険労務士のあり方を考えるうえで大いに役立つと思います。そこで誌上再録をしてみました。

日時：平成3年10月18日

場所：せせらぎ荘

講師：大槻 哲也氏



●景気の変動には左右されない仕事

私がT健康保険組合に就職したのが昭和38年です。そのころはオリンピック景気ということで非常にわいたのですが、48年に10年間の勤めを辞めて、仲間うち3人共同で社会保険労務士会の世界に入ったときに、ドーンと落ちてオイルショックがやってきました。3人でえらいときに開業したものだと1度は落ち込みました。しかし始めた以上はとにかくやらざるを得ないということで、「2年たったならそれぞれ独立しよう」と約束をしたのです。そして昨年開業15周年をやらせていただきました。

だから私はどのような不況になろうとも、社会保険労務士は絶対に生き残っていくという強い確信を持っています。ところが何もしないでメシが食っていけるかというそうはいかない。「社会保険労務士はメシの食える資格である」と私は知っているわけです。

●資格があるということ

法律上の資格として与えられたライセンスは、権限、権威、特権であると思います。だから法律上の関係の中においての社会保険労務士というのは、特権であり、それはほかの人にはできない知識や技能、経験をもって対応できるだけの資格、身分、地位であるという意味なのです。やはり大

事に考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

●社会保険労務士を取り巻く状況

ここで社会保険労務士である自分から見た場合、社会保険労務士の置かれた状況というのを少し考えてみてください。皆さんは「私は社会保険労務士だ。社会保険労務士の第2条に業務が書いてある。あれがわれわれの専門の仕事」と思っているでしょうが、それは自分たちが思っているだけです。

ところが企業はどうなのか。労働省でホワイト・カラーのユニット・マスター制度を作ろうとしています。それは資格制度です。今まさに審議会にかかってきて、進んでいるのですが、社会保険労務士はメンバーの一人ではなかったのです。ところが、新聞に出たので「人事労務管理といったわれわれの専門分野ではないか」ということで実は東京会の石原会長が連合会へお願いにあがったのです。それで私は人事労務能力開発委員会のところへ全国社会保険労務士会のほうから出向のような立場でそこへ入ったのです。

●専門家として主張が必要

社会保険労務士というのは、世間ではわかりにくいものだと思います。そこで、私は「年金の専門家は社会保険労務士」「業務上災害、労災保険の専門家は社会保険労務士」「貸金問題の専門家は社会保険労務士」と、お互いにいい合っていくというのが必要ではないかと思います。

●社会保険労務士の背景

私は地方に行くくと地元の新聞を読むのが好きなのですが、「県内農協、魅力の職場へ体質改善、退職者急増に歯止め策」というのが目につくのです。転退職に人手不足。これについては専門家は社会保険労務士ではないかということです。

今私どもが見渡した場合、いろいろな問題があります。歩いていけば仕事はそこらへんに転がっています。やるかやらないかだけです。というようなことをよく話しています。そこでそういうことに対応するためには、個々の社会保険労務士がどうあるべきかということと、もう一つは個々の社会保険労務士ではどうにもならないので、組織、会でやっていかなければならないということです。

●個人として、会としての資質の向上

これも社会保険労務士的な発想なのですが、個々の社会保険労務士は資質の向上を図ってくため

に自助努力をしていかなければいけないということです。

私は、坊さんであり、作家でもある今東光さんが昔いった「カネがないことは恥ずかしいことではない。教養がないことのほうが恥ずかしいのだ」という言葉がずっと頭に残っています。だから社会保険労務士というのは、カネを儲けなくてもいいが、教養は高めなければならないと思います。

そして、会としてどうあるべきか。杉本前会長がよく、「会員は会に対して何を望むのか。会は会員のために何をやるのか」とおっしゃっていました。私はまさにその通りだと思います。

まさに会として今やらなければいけないことは、まず社会保険労務士法の中に改善すべきことが一つあると思います。法律の中に「勤務社会保険労務士」と「開業社会保険労務士」などという区別がなぜあるのかということです。社会保険労務士は法律の中では同じであるべきなのです。そして「円滑な処理に努めなければ」とありますが、それに対する処遇はどうなっているかという、法律を探してもどこにもありません。責務だけ与えておいて、それに対する対価の報酬は、これだけのものを払わなければいけないとか、手当を払えとかいうことはどこにも書いてありません。私はそのようなところを見た場合、法律の中では開業とか勤務などと区別すべきではないと思います。

●ビジネスチャンス

社会保険労務士の場合は、ただ時代や世の中の変化に対応していくだけではいけない。その先を予測するところまで求められるのです。そのへんが社会保険労務士の大変なところであり、国家資格としての地位あるものの実力として必要なことなのです。

世の中は、生産至上主義から生活中心主義に変わってきています。とにかく生産をあげて儲ければいいというのではなく、ゆとりとか、労働時間短縮を見通していく必要があるのです。

そして私たち社会保険労務士がビジネスチャンスというものを開拓して、あるいは拡大していくには何をやるべきかの一つの例として挙げてみたいことがあります。

ライフプランという中で老後の生活設計が、高齢化社会の中であって重要視されてきています。その老後の生活設計は何を中心にプランニングし



ていくかという公的年金です。いったい何歳からいくら受け取れるのか、まさに年金の計算、予測ということが必要になってくるのです。

ではこれだけ説明していればいいのかというと、そうではなくて、われわれも異業種交流をやっていく必要があるのです。つまり損保会社とか生保とのつながりも持っていく必要があるということです。

●政治連盟の役割

社会保険労務士と法律を取り扱う行政の関係はどうあるべきかという、行政には協力はしていかなければいけないが甘えてはいけません。われわれは直接この法律によって、法律というものを自分たちで変えることによって、その法律に基づいて行政にやっていただけるというふうに考えなくてはならない。

ところが事業所や従業員というのは何かというと、「われわれの関係で何々法を法改正してください」と、政治家さんを通してやるわけです。

すると社会保険労務士自身が今度やる場合は、法律を変えたり法律の制度を見直すということのために位置づけされている社会保険労務士の政治連盟が、大事な存在であるということです。

●会員と組織の関係

以上のようなことから、今の環境をもう一度見直して理解してみる必要があると思います。そして今度は会員と組織の関係です。会は会員のために、会員は会のためにということを一つには理解する。これはどういうことかという、やはり会員は会のためにいろいろな事業へ参画する、あるいは会費を払うということをひっくるめたことです。会は会員のために、ベースアップの部分だけではないけれどもいろいろやっていかなければならない。こういう関係を今一度見直してみる必要があると思うわけです。

労働問題に関する情報発信と労使の相談相手 東京都中央労政事務所の事業

「労政事務所」は都内9か所に設置され、それぞれ地域を分担しており、当所は千代田、中央、文京、台東の4区と大島、八丈島等の島の労使、都民を対象として次のようなサービスを提供しています。

(1)労働問題についての多様な相談とあっせん

労使間のトラブルや労働に係わる多種多様な相談にいつでも応じるとともに、必要があればあっせんも行っています。毎週水曜日には夜間相談を実施する外、外国人労働相談（月、木曜日午後は英語、火曜日午後は中国語）、心の健康相談（火、木曜日午後、予約制）等相談者の利便や専門性にも配慮した相談体制をとるなど新たなニーズへの対応に努めています。

平成2年度の当所の相談件数は6,500件（全労政事務所相談件数3万件）、あっせんは102件（全労政事務所あっせん件数529件）でした。

(2)ホットな情報の収集・提供

労使紛争議、労働組合大会、春・秋季賃上げな



どの情報収集、管内産業の労働実態調査、労働組合基礎調査等を通して、労働問題に係わる情勢を常に把握し、事業内容の充実に努めるとともに速報や各種冊子・パンフレットとして労使・都民へ提供しています。

(3)自己啓発の機会提供

一般向けの基礎的な講座（労働基準法、労働組合法など）、労働組合や労働者を対象とした講座（女性・パート問題、春闘などのテーマ）、経営者や人事労務担当者を対象とした講座、女子学生や専門校生を対象とした講座等対象別に実施する外、トピック的な労働問題を取り上げた講座（平成3年度は、育児休業制度、時短、勤労者の健康など）も展開しています。

平成2年度は、20講座、延べ52日、約5万人が受講しました。

(4)中小企業に働く人々の福祉厚生制度への援助

労働福祉事業を自主的に実施する中小企業の団体への助成、企業内で退職後の生活設計などについて相談や助言する中高年勤労者福祉推進員の養成セミナーも実施しています。以上、働く人々の意識の変化や就業形態の多様化、さらには女性の職場進出、パートタイマーの増加、外国人労働者の問題など労政事務所に求められる役割はますます大きくなってきております。特に、労働時間短縮や新たに施行される育児休業法の普及は当面の重要な課題です。職員一同、期待に応えられるよう今年も頑張っております。

ヨーロッパ音楽行脚 雪解け前の ヨーロッパ社会主義国

日鐵溶接工業健康保険組合

牧野 武夫



ユーゴスラヴィアのリュブリアナ市内にて。1985年5月。市内には武装した兵士が巡回しており、町中の木陰には戦車(ソ連の)が隠れている(写真右側のゲームをしている人の後ろに戦車あり)。

1985年の話である。音楽行脚でヨーロッパを3週間程旅した。

フランスのリヨンに始まってオーストリー(ザルツブルグ・リンツ他)・ユーゴスラヴィア(フライハー)・西ドイツ(ニュルンベルグ他)・スペイン(オビエド・ヒホン)・イギリス(ロンドン)と各国を巡った。

当時はヨーロッパ社会主義国も雪解け前であったが、西側の国へドイツからチェコに入ると驚くことばかりだった。

まず、目についたのは、道路が不潔だったこと。西ドイツをはじめ、西側諸国がきれい過ぎるのかと思ったが、ユーゴの道路はゴミだらけ。アパートには洗濯物がぶらさがり、街には活気がない。町中の公園の木陰にはソ連製の戦車が隠れ、自動小銃を持った兵隊が警戒している。ホテルではパスポートを預けなければ外出できない。ホテルの電燈は暗く本も読めない。街を走る自動車は30年位前の代物。外貨(ドル)でないと買い物も出来ない(ドルが欲しかったからであろう)。

その2年程前にも、ハンガリ

ーに行ったが、首都ブダペストのマチアス教会での音楽会(ヘンデル『メサイア』)に集まった人々は、冷えきった礼拝堂の暗闇の中で、木の椅子に腰掛けて、ひそかに、しかし、一生懸命に音楽に聴き入っていた。

それは、文化の香りに飢えた人々が必死でクラシック音楽に触れているという感じであったが、これは、私の奢侈の感触なのだろうか。

いずれにしても、共産圏の国とは大変なところだと思った。

ところで、現実問題として…。もしも、元社会主義の国から、企業の労務管理をお願いしたいと日本にいつてきたら、どうしますか? 私は、こういう話は、東京都社会保険労務士会千代田・中央支部に持ち込まれるのではないかと思います。その場合にどう対応するのでしょうか。

第1回広報委員会開催さる

参議院選挙推薦者を決める

去る11月11日、東京都社会保険労務士会事務局
会議室で第1回広報委員会を開催、東京都社会保
険労務士政治連盟から支援要請のあった2名の方

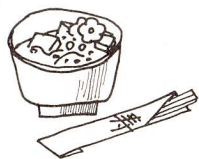
について全面的に応援することとし、ポスター等
を発送した。

会 員 異 動 状 況

(単位：名)

項 目 地 区	平成3年8月31日現在			異 動 (増減)			平成3年11月30日現在		
	開 業	勤務等	計	開 業	勤務等	計	開 業	勤務等	計
麴 町	38	149	187	0	0	0	38	149	187
神 田	67	116	183	0	△2	△2	67	114	181
日 本 橋	31	104	135	0	△1	△1	31	103	134
京 橋	47	92	139	0	0	0	47	92	139
合 計	183	461	644	0	△3	△3	183	458	641

あ と が き



新年明けましておめでとうございます。
本年も無事に皆様のお手元に新年号をお送
りすることができました。これもひとえに皆様
の温かいご支援とご協力の賜物と感謝申し上
げます。
昨年は、湾岸における地上戦の突入と世界
の平和に一抹の不安を投じましたが、人類の
英知と終結の決断によりあっけない幕切れと

広 報 委 員

島 田 久

なりました。一方社会主義国家においては政
変等が生じ、180度の転換と目まぐるしい年
でありました。

さて、今年は……。核の危険も遠ざかり平
和の光が一段と輝きを増すことでしょう。

本年も、皆様のご期待に添う紙面づくりに
努力してまいりますので、前年同様ご指導、
ご愛顧の程よろしくお願い致します。